

念仏もうさるべし

―喚び続けられて―

三月であります。春のきざしとご本願のおはたらきの中、皆さまには「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏ご相続のことに存じます。

ちび、雲、コロ、こてつ、さくら、こなつ、はち。ここ三十年ほどの間、西法寺におつてくれた愛犬たちの名前です。

〈ちび〉と〈雲(くも)〉は何代かその名前が受け伝えられました。身体の小さい子は〈ちび〉でした。〈雲〉はジョージ秋山さんのマンガ『はぐれ雲』から〈コロ〉は引越されることになったお同行さんから父が譲り受けて名前もそのままで、〈こてつ〉はコロの子どもでした。名前はマンガ『じやリン子チエ』

に出てくるとても人間味のある猫の名前です。

〈さくら〉は歴代で一番長生きで、十六年間おつてくれました。西法寺に来てくれたのが平成八年、渥美清さん、私にとっては「寅さん」がお隠れになった年で、女の子だったので名前は〈さくら〉。

つぎの〈こなつ〉は今ご縁の皆さまや、宅配のお兄さんやお姉さん、お花屋さん、いろんな人たちにもとつてもかわいがっていただきました。夏の終わりに西法寺に来てくれたので〈こなつ〉です。西法寺におつてくれたのは六年でした。

そして、今おつてくれるのが〈はち〉。誕生日が八月八日で、その名も〈はち〉です。ただいま二歳半、とつてもゴンタでしたが少しおとなしくなってきましたかと思っております。

今日、外はホカホカとしてとの気持ちのよいお日和です。お参りから帰ってくる〈はち〉が日向で無防備にスヤスヤと寝ていました。近づいても気づく気配はありません…。

“住職に似て…”などと思いつながら「はち」と声をかけてみました。

ゆっくりと眼を開け、そーろつと首をあげてこちらを見て、フワ〜と大きなあくびをして。ジーツとこちらを見ています。私はもう一度「はち」。

すると、ヤレヤレという感じでのっそりと起きあがって、ゆるゆるとこちらに近づいてきます。近くに寄ってきて「なんですか？」という感じでこちらを見つめています。「けっこうやね」といいながら(なにが、けっこうか知りませんが)はちの頭をなでて私は家の中に入ったのであります。

今、寺におつてくれている子にわたしは「はち」といいます。歴代の子たちにもそれぞれの名前を呼んできました。名前を呼ぶとどの子もこちらを向きました。私でない家族が呼んでも同じことです。

あの子たちは「自分が呼ばれている」ということに気がついていたのでしよう。私は〈はち〉に「こんこん」と「お前は〈はち〉やぞ」というた覚えはありません。なんどか呼んでいる内に〈はち〉は自分が〈はち〉だと気がついたのであります。

われ称え、われ聞くなれど南無阿弥陀 連れてゆくぞの 親のよび声  
幕末から明治にかけて活躍された原口針水という和上さまのお歌であります。

南無阿弥陀 ほとけの御名と 思ひしに 我をばすくふ 親のよび声  
これは行信教の校長先生でいらした利井興弘先生のお歌です。

私が口につけて、私の心に届いてくださる「なんまんだぶ」は阿弥陀さまや、ご往生くださった方々が「お前さん必ず支えてるで、いろんな事がやっつては来るけど大切に大切に生きていくんやで」と喚び続けてくださっているおはたらきの響きだったのであります。

なんまんだぶ、なんまんだぶ…。というお念仏は阿弥陀さまやご往生くださった方々から他の誰でもない「この私」が喚び続けられている事だったのですね。他の誰でもない「この私」は阿弥陀さまやご往生くださった方々から喚び続けられているのであります。

私気がづくまで…。そして気づかせていただいたから…。

